

秋田県沿岸市町の中学校における生徒の防災意識に関する研究

秋田大学	学生会員	○安田 慎吾
秋田大学地方創生センター	非会員	鎌滝 孝信
秋田大学	正会員	渡辺 一也

1. はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、大規模な自然災害が起きた際に一人一人が主体性を持った減災行動をとることが必要と、様々な場面で唱えられている。また、地震発生の可能性に対する認識と地震に対する備えの姿勢や興味・関心は、必ずしも関連するわけではないということがわかっている¹⁾。この状況の中で、近年では太平洋側と日本海側における住民の防災意識の違いが問題になっており、相対的に太平洋側では防災意識が高く、日本海側では低い傾向にあるとされる²⁾。一方、佐藤らは、秋田県内の小学生を対象とした防災意識に関するアンケート調査を実施し、東日本大震災後の小学生の防災意識について検討した³⁾。また、地域の過疎化、高齢化が進む秋田県の各自治体では、中学生や高校生が地域防災における次世代のリーダーとして成長し、活躍していくことが期待されている。そのような背景の基、本研究では、日本海側に位置する秋田県沿岸市町の中学生の防災意識に関するアンケート調査を行った。また、比較対象として、秋田県能代市5校と今後南海トラフでの大きな地震が想定される愛知県・三重県の中学生との防災意識の違いを比較し、秋田県の中学生在が意識すべき課題について検討する。

2. 調査実施学校

調査対象とした中学校は、秋田県内では八峰町1校、能代市7校、男鹿市4校、潟上市3校、秋田市2校の計17校である。さらに、愛知県愛西市と三重県桑名市でそれぞれ1校ずつを対象とした。また、秋田県能代市の5校と愛知県愛西市および三重県桑名市の中学校は、それぞれ米代川と木曽川すなわち一級河川の下流部かつ沿岸の周辺に立地していることから、それぞれの周辺地域特性が似ていると判断し比較対象とした。

3. 調査方法

アンケート調査は2016年7月～10月に実施し、実施校の教員を通じて生徒にアンケートを配布し、その場で記入および回収を行った。アンケートの回収は秋田県、愛知県、三重県合わせて19校、4827人である。回収したアンケートは、それぞれの質問の回答に対する単純集計を行い、さらに2つ以上の質問の回答を組み合わせたクロス集計を行った。また、学校周辺の地域特性が似てい

ると考えられる秋田県能代市と愛知県愛西市および三重県桑名市にある中学校における集計結果の比較を行うことによって、秋田県の生徒が今後意識していかなければならない課題について検討した。

4. 結果とその解釈

本講演では、「避難に関する知識」と「ハザードマップの認知」についての結果に関する考察を行う。「住んでいる所のハザードマップを見たことがありますか？」という質問で得られた回答別に、「自然災害が起きた際、避難の方法を知っていますか？」という質問に対する回答の集計結果を以下に示す。

(1) 秋田県の生徒のみの集計結果

「ハザードマップを見たことがある」生徒で避難の方法を知っていると回答した割合は91%である。一方、「ハザードマップを見たことがない」生徒では避難の方法を知っていると回答した割合は82%である(図-1および2)。以上の結果から、ハザードマップを認知している生徒は、認知していない生徒に比べ避難の方法を知っている生徒が多いことがわかる。

「避難の方法を知っていますか？」

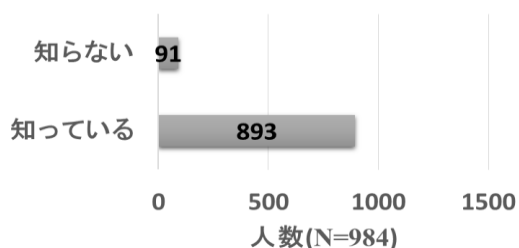


図-1 ハザードマップを見たことがある生徒の集計結果

「避難の方法を知っていますか？」

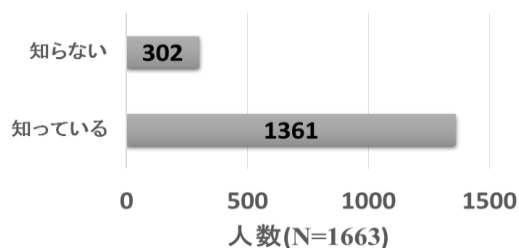


図-2 ハザードマップを見たことが無い生徒の集計結果

(2) 能代市と愛西市および桑名市の生徒の集計結果の比較

能代市では、「ハザードマップを見たことがある」生徒で避難の方法を知っていると回答した生徒の割合は 89% である。一方、「ハザードマップを見たことがない」生徒では、避難の方法を知っていると回答した生徒の割合は 80% である（図-3 および 5）。このことから、能代市 5 校の生徒は防災意識が比較的高いと言えるかもしれない。また、愛知、三重両県では、「ハザードマップを見たことがある」生徒で避難の方法を知っていると回答した生徒の割合は 82% である。一方、「ハザードマップを見たことがない」生徒では、避難の方法を知っていると回答した生徒の割合は 73% である（図-4 および 6）。以上の結果から、それぞれの周辺地域特性が似ていながらも、愛西市と桑名市の生徒よりも能代市の生徒の方が、避難の方法の認知度が高いようにみえる。また、どちらの学校も「ハザードマップを見たことがある」生徒は比較的に避難の方法に対する意識が高いようにみえる。

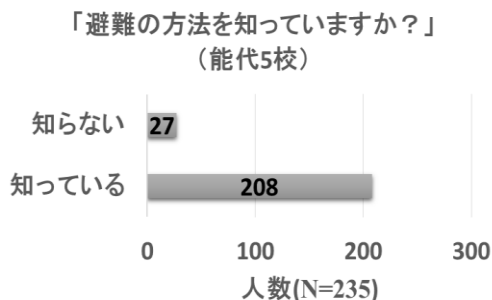


図-3 ハザードマップを見たことがある生徒の集計結果

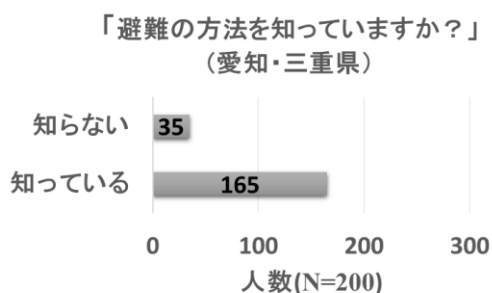


図-4 ハザードマップを見たことがある生徒の集計結果

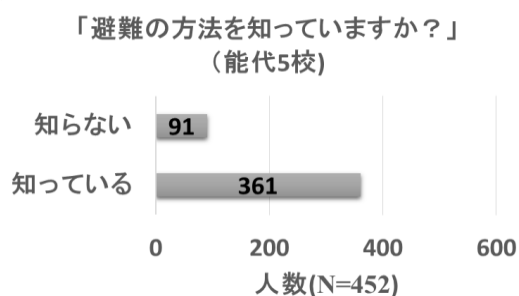


図-5 ハザードマップを見たことがない生徒の集計結果

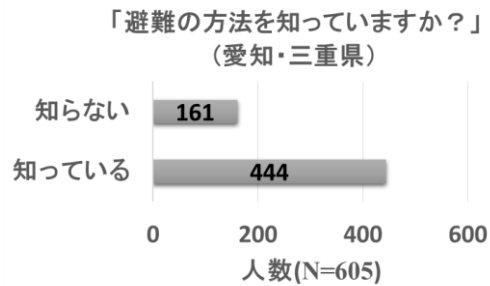


図-6 ハザードマップを見たことがない生徒の集計結果

5. まとめ

本研究では以下の結論を得た。

(1) 秋田県のみ「ハザードマップの認知度」と「避難に関する知識」の集計結果をみると、「ハザードマップを認知している」生徒は「避難の方法を知っている」割合が比較的高いといえる。ハザードマップは自然災害が起きた際に、避難する上で重要かつ有用なものと考えられる。したがって、学校の授業で防災教育を行うことで生徒のハザードマップに関する認知度をさらに向上させる取り組みを行っていく必要がある。そして、小学生や中学生の時からハザードマップを自ら作る機会を与え、自発的に防災に関する意識を持たせることも重要である。また、地域の過疎化、高齢化が進む秋田県の中学生や高校生が地域防災における次世代のリーダーとして成長する機会を増やしていくことが秋田県では必要があると考えられる。そのためには、今後防災教育の内容を充実させていくことが必要と考える。

(2) 能代市と愛知、三重両県の「ハザードマップの認知度」と「避難に関する知識」の集計結果をみると、能代市と愛知、三重両県における中学生の防災意識に関しては、能代市の生徒の方が愛西市と桑名市の生徒と比べ防災意識が高いようにみえる。この結果から、太平洋側の方が日本海側より防災意識が高いと一概には言えないことを示唆している。今後、能代市、愛西市および桑名市で行われている防災教育の内容を精査し、この結果の妥当性を検討していくことが必要である。

謝辞

アンケート調査を実施するにあたり、秋田県教育庁保健体育課および八峰町、能代市、男鹿市、潟上市、秋田市の各教育委員会、秋田県内 17 校、愛知県愛西市内 1 校および三重県桑名市内 1 校の中学校の校長をはじめとする教職員および生徒の方々に多大なる協力を頂いた。関係各位に対し、この場を借りて深く感謝いたします。

参考文献：

- 1) 伊村則子ほか、千葉県市原市立小学校における小学生と保護者を対象とした防災に関する調査報告書、2009。
- 2) 内閣府、平成 28 年度版防災白書、2016。
- 3) 佐藤ほか、秋田県内の小学生および保護者の防災意識に関する研究、土木学会東北支部講演要旨、2016 (CD-ROM)